

案件1 前回の振り返り

- ・事務局より、第1回会議の議事内容を確認。
- ・健康につながる活動情報、意見交換に関する対応を報告。

案件2 第3次健康都市いずみ21計画における達成目標の進捗について

- ・健康寿命は計画策定時から着実に上昇も、不健康期間は女性で悪化。死亡や要介護認定者の増加などコロナの影響も推察されるが、経年の変化も含め次期計画策定でも分析していく。
- ・評価指標と目標値について、「こころ」「健康チェック」の数値を新たに追記。
- ・数値をお示しできた13項目中10項目（76.9%）が改善傾向という結果となった。

案件3 第3次健康都市いずみ21計画における各機関等の令和5年度の取り組み及び令和6年度のとり組み予定について

- ・事務局より、令和5年度における行政の主な取り組みと令和6年度の取り組み予定について拡充、充実したものを中心に報告。また、各団体及び市民委員より活動を報告。

案件4 第4次和泉市健康増進計画の策定

- ・策定体制、検討委員会、スケジュールについて報告。
健康増進計画の「栄養・食生活」「地域力」の分野で、課題や目的が重なる部分があり、連動した推進が必要であることなどから、食育推進計画と同時に策定。計画策定にあたり、検討委員会を設置。学識経験者や各分野において専門性を担う団体に協力いただき、議論を重ね策定。
本市民会議と並行して検討委員会を開催。検討委員会は5回、市民会議は2回実施予定。
関係団体の皆様には、ヒアリング並びに検討委員会委員として、ご協力いただきたい。

・各機関からの主な意見（要約）

| | | 意見 | その後の対応 |
|---|------------|---|---|
| 1 | 歯科医師会 | 【案件2】 特定健診というのは全ての市民が市の特定健診を受けるわけではないと思うが、それを差し引いて考えても(受診率が)低い数字。皆さまが受けていただけるような特効薬的なものはないと思うが、方策等の知恵について何かないか。との声かけあり。 | 事務局より、数値が高い市町村に組みを確認し、参考にしながら進めていきたい、と回答。がん検診の受診率については府下33市の中で5大がんについて、3位となっている。胃がん検診は数値が低い、検診実施の方法により、受診率が変化する傾向にあるので、市として取り組みを検討すると説明。 特定健診は、令和4年度の受診率は39.8%、府下では上位8位、阪南ブロックでは8市中1位となっている。取り組みについては、広報・冊子及びリーフレット・チラシ・ポスター・メール等の媒体を活用した周知・啓発に加え、AIを活用した受診勧奨ハガキによる勧奨案内を増やし、かかりつけ医との連携による受診勧奨に取り組んでいく。また、早期からの健康行動（継続受診）の意識づけを図ることに繋がる35～39歳加入者への特定健診同等の受診機会についても継続的に実施する。 |
| 2 | 食生活改善推進協議会 | 【案件3】 ベジチェックの機械は保健所にはないか確認される。 | 保健所より持っていない旨伝える。他機関からも所有しているという発言なし。 事務局では健康増進に係る活動支援を行っており、活動団体のニーズに応じ支援を実施する。 |
| 3 | 地域活動栄養士会 | 【案件3】 出前講座について、老人クラブさんにも行きましたが全然知らないところからは依頼が来ないので、ニーズがあればお話しできる。 | 今後の取り組みにつなげていく。 |
| 4 | 市民委員 | 【案件4】 ヘルサポは自主的に健康づくり活動ができる自慢のグループ。和泉市目標の健康寿命を延伸につながるよう、若い人、次の世代の人たちに健康を送ろうという目標がある。未来とかをテーマに入れていただければと思うとの意見。 | 今後の取り組みの参考にしていく。 |
| 5 | 歯科医師会 | 【案件4】 訪問診療にて、嚥下状態が悪い方、すぐ病院のほうからご指導のあったところみ粉をつけて食べておられる。高齢の方、少し嚥下機能が落ちた方に対しての食支援（栄養源、どの程度の量や何カロリーなど）、今後少し含めていただければありがたいのかなと感じた。 | 今後の取り組みの参考にしていく。 |
| 6 | 副市長 | 健康都市いずみ21計画・食育推進計画を一体化するメリットを活かして市民の役に立つ計画づくりに結びつけていきたい。一体化し、市役所を含めた関係機関同士の連携の強化を検討、進めていかなければならない。 自助・共助・公助の連携について、今後も取り組んでいきたい。また、自助・共助も大事だがそれらを支える公助をしっかりとやっていきたい。私の持論ですが、上下論というのがあり、関係機関同士の連携というのは、卵の上の中の連携をしっかりと、卵の下に住民同士の連携もやっていかなければならない。この卵の上と卵の下もしっかり合わせなければならない、これが合って初めて真の地域包括ケアシステムが構築できると考えている。 担い手社会資源の不足について、さらに力を入れて、創発の場開発プログラムを進めていきたい。市民活動が衰退しているかということなどは無いと思う。おそらく多様化した形で全体のボリュームとしては増えていると思う。先日も子育て支援のNPOの方々と議論する場があり、それぞれの団体のやりたいことの目的は明確であった。つまりシーズとニーズのミスマッチだと思い、これをしっかりと合わせていくのが今後必要になると思う。そのためには支えられる側と支える側との二元論ではなく、みんなが主役、すべての人々に役割があるという考え方で連携していく必要がある。これが市長が推奨しているプラチナタウンであり、創発（1＋1＝2ではなく新たな価値観が生み出されるという考え方）を進めていく新しい時代の地域福祉とか地域での健康づくりのベースになる考え方ではないかと考えている。 | 課題を整理し目標を設定するとともに、ライフステージ別の取り組みや、役割別（市民、地域・団体、市）の取り組みなど、次期計画策定へ反映し推進を図っていく。 |